

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200885		
法人名	有限会社エイチ・ティ・エス		
事業所名	ハーモニー さくら 1F		
所在地	札幌市北区新琴似6条14丁目8-23		
自己評価作成日	令和5年12月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170200885-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和6年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが穏やかに、その人らしく過ごせるように努めています。職員は色々な面を工夫アイデアを出し合い、日々の生活の中で共に楽しみながら、心の通う介護支援ができるようにしています。スタッフ間のチームワークも良好で、協力、情報を共有し柔軟な対応ができるよう努めています。面会も短時間ではありますが、来ていただき、ご家族と利用者様が交流ができ、安心していただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りのバス停から徒歩5分程で、コンビニや飲食店が立ち並ぶ屯田通りから少し入った住宅街に位置する利便性の良い、9名・6名体制の2ユニットの事業所です。開設から22年目、周辺住民から毎冬、玄関前の除雪支援を受け、野菜やおやつの差し入れが届き、事業所は地域の認知症高齢者の支援を見据えた共用型デイサービスを導入するなど、地域に根差し密接した環境にあります。運営推進会議に利用者の参加を促し感想の言葉を引き出し、折り紙で季節に因んだ作品作り、習得した気功術を他の利用者に指導する場面作りなど、職員は基本理念に沿って、自分らしく生きる自立に向けた介護支援に取り組み充実の日々を工夫しています。利用者、家族に満足度アンケートを実施し、意見、要望を運営に反映しています。利用者のニーズや課題を把握する上で職員間でグループLINEを作り、スピード感のある情報の共有と連携、対応策などチームで検討し支援に努めています。調理専門職員を配置した拘りの手作り料理、協力医療機関と看護師職員の協働による健康管理と終末期支援、毎月の通信やブログの配信で事業所の透明性を図るなど、家族の信頼と理解につなげています。新型コロナウイルス5類移行後は、管理者と職員が協力して徐々に活動の範囲を広げており、より豊かな日常を取り戻す機会として外出レク、外食レクの実現に向けたサービスを目指しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前に理念を掲示し、実践につなげられるよう努めている。	尊厳を念頭に置いた法人の基本理念と行動指針に加えて事業所独自の理念を策定しています。ケア方法に迷いがある時は、常に理念に立ち戻り、職員の拠り所となっています。全職員が理念を共有し、目標とする「笑顔を絶やさずに日々楽しく」の暮らしを実現しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催や、町内会の行事にも少しずつ増えてきているので、なるべく参加できるようにしている。	町内の活動も通常に戻りつつあり、祭りの子供神輿が練り歩き利用者は手を振り応援しています。玄関前の除雪支援や野菜やおやつ差し入れ、運営推進会議への参加など、地域に溶け込み支え合う関係性を培っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナも5類になり、落ち着いてきているので、また地域の方との関りを増やしていきたいと思っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をもとにサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、質問等頂き、サービス向上に努めている。	会議は年6回のうち3回は小規模多機能事業所と合同で開催しています。7月から対面となり、地域包括支援センター、町内会役員、知見者、家族、利用者の参加を得て、運営の状況等を資料を交えて報告し、質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となりサービス向上に生かしています。議事録は全家族に配布しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、区の担当者と情報交換したり、意見を伺いサービス向上に努めている。	事故報告等の書類提出は郵送で、情報収集や案件の相談はメールや電話で共有や指導を仰ぎ、地域包括支援センターとは運営推進会議への参加を得て協力関係を築いています。介護認定調査時等の担当者とは連携を図り、利用者の暮らしの安定につなげています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回と研修も行い、身体拘束となる行為を再確認しケアにより取り組んでいる。	3か月ごとの身体拘束適正化・虐待防止委員会の開催や年2回の研修の実施で、身体拘束に考えられる事例等を検討し、さらに自己点検を行い、身体拘束をしないケアに努めています。防犯上の玄関施錠、転倒防止のセンサー使用は家族の同意を得ていますが、見守りを強化しながら、安全で自由な暮らしの支援に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修を行い、各利用者様のスタッフの対応の仕方が虐待にあたっていないか、例を出し合い話し合いを行うようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修、内部研修で権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、御家族に説明、ご理解や質問を受けて納得されてから契約等していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、メール等で意見、要望をお聞きするように努め、スタッフにも周知対応できるようにしている。	利用者、家族の意見や要望等を引き出す機会として、運営推進会議や満足度アンケートを実施し、改善に向けて可能な限り要望に応えています。面会時や電話、個別の手紙等でも状況を報告し思いを汲み取り、毎月のホーム便りやブログの更新で日常の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回は面談を行い、意見や提案を言える機会を設けている。	定期会議や申し送り時は勿論、職員との連絡や情報、提案、意見等はグループLINEで一同に確認でき、サービスに生かしています。調理専門職員や夜勤専属職員を配置し、介護の充実やシフトの調整など働きやすい環境を整えています。職員は、年2回の個人面談など人事考課制度を生かしスキル向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、努力や実績の把握、働きやすい環境になるよう、評価や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修を受けられる機会や環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部との交流の機会はまだまだ少ないが、機会の場を作るよう努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話せる時間を作り、信頼関係を築けるよう努めるとともに、お話を聞くようにしている。ご家族や他のサービスを受けていた所からの情報を収集し、良好な関係が作れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に話せる時間を作っていただき要望等をお聞きしている。入居後も不安や要望にお答えしたり、生活の様子を報告するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集や聞き取りの中で必要としている支援を見極めて、サービスの提供に努めている。また、他のサービスも視野に柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ないことを支援し、出来ることは、ご本人のペースでやって頂いている。また、お手伝いをお願いして、一緒にできるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時は、ご家族に連絡を取り、今後の支援の仕方を話し合ったり、相談している。ご家族に協力していただけることはお願いしたり、共に支えていく関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ関係が途切れないよう努めている。	新型コロナウイルスの5類移行後は家族や親族等の面会も増えて、触れ合いから安心感につながっています。電話や手紙の取次ぎや投函を支援しています。家族の協力で墓参りに出かけるなど、徐々にコロナ禍以前のような関係継続の支援に取り組んでいます。日々の会話で古き良き時代を辿っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を考慮して、スタッフが間に入ったり、席替えをするなど工夫しながら良好な関係を保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて継続して連絡、電話相談できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話せる時間を作り、希望を聞くように努めている。ADLの把握、支援時の表情や言動から思いや意向をくみ取り支援している。	ほとんどの利用者は会話が可能なので、寄り添いながら要望や意向に耳を傾け、困難な場合はバイタルや表情、仕草など職員間の情報も参考に、本人の望む暮らしを検討し、ケアサービスの提供に努めています。	「自分らしく生きる尊厳を大切に…」の理念を踏まえて、本人のこれまでの人生観や価値観、どのような終末期を望むのか、可能な範囲で把握に努め、その情報は家族と共有し、記録に残す事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に、ご家族に本人の基本情報について記入していただく書類をお渡しし、生活歴や趣味など記入お願いしている。また、ご家族、本人から話を聞いて把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子やご本人の言葉を記入するようにし、心身状況や特変をスタッフ全員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、医師、看護師の助言を受け、カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に反映している。	利用者の状況についてグループLINEで常に意見交換を行い、その内容を再度カンファレンスで振り返り、モニタリングで導き出された気づきを加味し検討しています。本人、家族、医療関係者の要望や意見を取り入れ、ニーズに合わせた介護計画を6か月ごとに作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子、支援内容を記録、申し送りし、情報共有に努めている。スタッフで日々話し合いながら、より良い支援が出来るようにし、介護記録の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、その時によって臨機応変な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事にも少しずつ参加できるよう努めています。四季が分かるように、旬の食材や散歩などに出かけたりながら、豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来ていただき、普段の状態や特変時の報告等を行い、適切な医療が受けられるようにしている。外部受診の支援もしている。	契約時に内科や歯科の協力医療機関を説明しています。ほとんどの利用者は、内科、歯科の月2回の往診を受けています。かかりつけ医や専門科医の受診は家族対応を基本としています。非常勤看護師を配置し、日々の健康管理や医師との連携に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気になる点、変化を報告、相談して適切な看護を受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供し、退院に向けて、情報交換や話し合いを行い、連携できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、医師、看護師、家族、ホームで話し合い、今後の方針、家族の意向を尊重しながらホームでできることを、皆で協力して支援している。	終末期対応については指針を基に説明し同意を得ています。重篤時には、医師の判断を交えて家族と話し合い、再度意向を確認し同意を得ています。看取り時はマニュアルに基づき、カンファレンスを行い、家族、医療関係者、職員と方向性を共有し、最終支援に臨んでいます。職員は看取りの経験から得た知識や技術に加えて研修でさらにスキルを磨き態勢を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員にはできるだけ救急救命講習などの研修を受講を勧め急変時の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合訓練を行い日頃から実践できるようにしている。又近隣の事業所と連携し避難場所の確保に努めている。	夜間想定で地震からの火災避難訓練と夜間想定での火災避難訓練を利用者参加で実施しています。年度内に水害対策の垂直移動訓練を計画しています。避難場所として近隣の系列施設を確保しています。非常用備蓄品の準備、事業継続計画を作成しています。	ハザードマップ上のリスクを確認し、様々な自然災害時の実地訓練を行うと共に、入浴時や排泄時などケア場面を想定したシミュレーション訓練も期待します。さらに、夜間想定での火災避難訓練には夜間専従職員の参加や地域住民の協力を促す呼びかけも期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修から人格の尊重とプライバシーの確保について学ぶ機会をもち、職員共通の課題として取り組んでいる。	研修で接遇の基本を学んでいます。利用者の意思を尊重しながら、心地よく安心感のある声掛けや呼び名も「さん」付けで、不快にさせないケアを心がけ、排泄時や入浴時はプライバシーに留意しています。個人情報も適切に管理し、申し送り時は声の大きさに配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、着る服や食べ物の好みなどできるだけ本人の希望に沿うよう支援している。又、困難な方には生活歴やご家族から本人の思いを代弁していただけるよう聞き取りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事の時間や、睡眠時間、余暇活動など本人の暮らしのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のヘアスタイルや化粧など、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握して苦手な物は代替えを提供している。食事の準備など簡単な作業は職員と一緒にしている。	職員は旬の食材を活用したメニューを作成しています。調理専門職員を週2回配置し協力を得ながら、手作り料理を振る舞い喜ばれています。誕生日はケーキで祝い、敬老会には赤飯に蕎麦、煮しめなど好物の品々を盛り込んでいます。正月は豪華なおせちの仕出しを手配するなど、食卓が幸せな場面になるよう工夫しています。利用者も出来る範囲で手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療のアドバイスを受けながら、栄養バランスを整えたり、毎日水分チェックを行い必要な量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもと、毎食後口腔ケアを実施して口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失敗を減らし快適に過ごせるよう支援している。	排泄習慣やパターンを把握し、利用者のサインを見極め声掛け、誘導を行っています。ベッド上での支援も有りますが、自立者は見守り、立位や歩行困難な場合は2人介助で、トイレでの排泄を大切に支援しています。体操や乳酸菌飲料、水分摂取を推奨し、自然排便を促しています。快適さを求めた衛生用品を、利用者個々に合わせて検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、バランスの取れた食事から排便につながる様支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	できるだけ職員都合にならないよう、午前、午後に分けながら入浴を楽しめるよう配慮している。	ゆっくりと湯船に浸かる利用者が多く、週2回を目安に支援し、状況によっては足浴とシャワー浴、清拭で衛生保持に努めています。浴室との温度差に配慮し、湯加減の調整、入浴剤の使用、同性介助など要望に応じ、拒む場合も対応を工夫し、寛ぎの時間を提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度・温度管理を行い環境を整えている。又、日中でもその方の状況に応じて休息の時間を作るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解について、薬剤師より研修を受ける機会をつくらせたり、看護師、薬剤師と情報を共有しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なレクリエーションを行い、外出や外食、買い物などの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできるだけ外出できるように支援している。又、ご家族との外出についてもコロナの状況を見ながら支援している。以前は地域行事への参加も行っていたがコロナ禍で控えていたため今後は少しずつ再開していきたい。	日常では玄関前の花壇に水やり、裏の公園を散歩し春の桜や秋の紅葉見物で気分転換を図っています。感染症の状況を見極めながら、ドライブを楽しみ公園散策やソフトクリームを味わっています。家族との墓参りも実現するなど、外出支援の検討を始めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に移動販売を利用してお金を使える支援を行ってきたが、今年の半ばより終了となっている。町内会館には定期的に来ていたため、できるだけ継続して支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を本人につないでお話できるように支援している。又、年賀状や手紙のやり取りができるよう支援し良好な関係の継続に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りやその時期に合った食事の提供を行っている。又、温度・湿度の管理に努めて居心地よく過ごせるよう工夫している。	各ユニットのリビングにはクーラーや加湿器を設置し、温湿度は適切に管理され、悪臭も無く清掃が行き届いています。柔らかな陽射しが差し込む共用空間には、利用者と職員の合作である折り紙の飾りが壁面を彩っています。食卓テーブルやソファが適所に配置され、利用者や職員が会話を楽しみ和やかに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓の配置などを工夫して気の合った利用者同士が過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本人の使い慣れたものを持参していただき、居心地の良い居室となるよう支援している。	居室には収納スペースがあり、カーテンも用意しています。利用者は家族と相談しながら、単筒、ベッド、椅子、テレビ、仏壇などを持ち込み、動線を確保しながら配置しています。好きな編み物道具や観葉植物、家族写真などを身近に置き、水やりや手芸を楽しみ、本人が心地よく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口の表札やトイレの場所などがわかるように表記している。		